

令和6年度 第3回学校運営協議会 会議録

● 日時：令和7年2月12日(水) 午前10時00分～午前11時45分

● 場所：北海道新篠津高等養護学校 視聴覚室

1 開会 【校長挨拶】

御多用の中の御参集に感謝申し上げます。後ほど、新年度に向けた経営方針(素案)を説明するので、御意見をいただきたい。

2 3学年生徒の進路について 説明者：進路指導部担当者

■ 配付資料に基づいて説明

ほとんどが進路先決定済。2名が未定。内1名は可否検討中の状況。今年度は、医療機関、教育機関の採用もある。教育機関では、会計年度任用の地方公務員としての採用。

【委員からの質疑・意見】

- (1) 委員：専門学校進学について。試験対策に係り補講などを行っているか。または、授業の中で行っているか。
→ 入学試験があれば、それに向けた対応をしている。面接練習等を行っている。

3 今年度の地域との連携状況 説明者：副校長

■ 資料に基づいて説明。

- (1) 学年 地域の資源活用として、「救急救命講習」「パークゴルフ」「天文台の活用」に取り組んだ。また、エスコンからの試合観戦招待を活用した。
- (2) 分掌 交流および共同学習では、それぞれの教育課程の兼ね合いなどから現在実施が難しい状況。今年度も「青空まつり」に参加することができた。生徒会役員選挙で、実際の投票箱を借用して取り組んだ。現場実習では、村内の各事業所から協力をいただき、生徒たちに確かな学びを進めることができた。
- (3) 学科 「青空まつり」で製品の販売をすることができた。課題は、夏休み中なので有志での実施であること。役場での製品販売は、役場の職員の方々に販売することができた。課題は、客層が限定的となってしまったこと。
コーヒ豆の納品、間伐材の利用、知育玩具の作成、自治センターでの販売を実施することができた。また、福祉会施設の窓清掃を実施することができた。継続について検討中である。

【委員からの質疑・意見】

特になし。

4 学校評価について 説明者：副校長

■ 教職員、保護者、生徒 各評価の考察について説明。

【委員からの質疑・意見】

- (1) 寄宿舍指導に関して、E(わからない)の項目を選択している職員がある程度いる。校内での業務に係る情報共有が必要と思われる。同様に、保護者の評価においてもEの回答があることから、寄宿舍指導の啓発を行うことで、より学校・寄宿舍の取り組みの理解が進むと考えられる。

5 令和7年度学校経営方針(素案)について 説明者:校長

現在、思案中で、各部の部長や主任から意見を集約している。3年の期間で考えているので、大枠は変わらない。重点的に取り組みたい点について説明する。

教育理念については、教育課程改善委員会を中心に改善を図っている。教育目標の再検討をしている。全職員に周知しながら進めている。学校信条は、生徒にとって安心・安全であり、成長と希望のある学校となるように取り組みたい。いじめ事案については、年度内に終息したとしても、次年度はフォローアップする年度として安心な学校づくりに力を入れたい。互いの良さと多様性を認め合い、他者の視点、立場を知り、認め合える生徒を育てる学校としたい。

青年前期であることから、社会に出る職業教育を最重視して取り組み、学校で学んだことを社会生活で活用できる力を育みたい。そのために、学校内だけでなく、村内・地域での活動、施設設備の活用を教育的に計画的に取り入れたい。各学科を中心に、学校経営の重点としているところである。模擬株式会社化の実現は難しいかもしれないが、学科間の連携強化に取り組みたい。

令和8年度、札幌圏の特別支援学校の一部で間口増になると道教委の方針が出ている。どの学校、どの学科かは検討中。本校は、過去に1間口増の対応した経緯がある。職員には、間口増になることを視野に今後の計画を立てることが重要として説明している。道財政は厳しく、学科が増えても原材料費の配分は横ばいになるとみている。これまでも自助努力で節約できることはしているが、予算要望をしていきたい。予算が十分つかない場合には、別の手立てを検討する。備品、原材料費などの要望、効率的効果的な執行は必要と考えている。要望する場合は、学校運営協議会で検討し、道教委に対し、本協議会会長名で要望書を出していただけるとありがたい。校長単独では難しいため本協議会のお力をお貸しいただきたい。

【委員からの質疑・意見】

(1) 村の生涯学習十年計画を立てる際、弱者・障害者を救うようなプランを、と依頼され、ジェンダー平等を入れた。

高等養護学校の生徒たちが暮らしやすい村づくりに取り組んでいる。校訓に感動をうけた。学校経営構造図の前面に出して強調してほしい。

クリーニング科に村の小学校の法被をクリーニングしてもらい、小学校の保護者が喜んでいた。運動公園の椅子については、生涯学習員の会議でも出ていたので、春に設置されるのが楽しみである。また、各会館等にもテーブルや椅子があると利用できる方が多いと思う。木工科が取り組む村の1歳児への知育玩具贈呈のように、布絵本を家庭総合科で作成し、2、3歳児に贈呈してはどうだろうか。

(2) たっぷの湯でも本校の製品がおかれている。蕎麦のお皿、トレイ、ランチョンマットのセットを校内のコラボ製品とし、村内の飲食店等で、そばの提供時に活用してもらうのはどうか。学科間のコラボは良い活動になるのではないかな。ハーブを活用した取り組みであれば、村の畑でハーブを作り、学校で加工、販売することが考えられる。新篠津村は食物が美味しいので、村の特産品に高等養護学校が絡んでいけると良いと思う。

道財政は厳しい。「学科製品の売り上げの一割は学校が使える」など、道教委の制度に改善が求められる。

(3) 自治センターで演劇部に自主公演をしてもらっている。次年度もあると聞いている。観劇するのが高齢者だけではもったいないので、一般の方にも参加を広げ、継続して村の人に観てもらえるようにしたい。その他にも、自治センターに木工科や窯業科の製品展示や学習活動のパネルを掲示するなどして、村民に発信してはどうか。

(4) 商工会として、模擬会社化に協力できると思う。模擬会社化には楽しさを感じる。他でやっていないことをやってみるのもよい。活動の場を作り、学科の取り組みに協力したい。例として、カフェ、食堂など生徒たちが主体となって取り組み、村内外からの客が集えるようにしたい。

6 閉会

【校長挨拶】 貴重な御意見を頂戴し、感謝する。